

# リオ+20 と生物多様性に関する 石川宣言

2011年12月17日～18日に日本の石川県で開催される国連生物多様性の10年キックオフ・イベントに参加しているリオ+20と生物多様性実行委員会のメンバーは、

2012年6月に開催される国連持続可能な開発会議（リオ+20）において、生物多様性は、非常に重要な課題として取り扱われるべきであると考えている。

2010年10月に名古屋で開催された生物多様性条約第十回締約国会議において、愛知ターゲット、名古屋議定書、名古屋クアランプール補足議定書が採択されたことは、生物多様性条約の歴史に置ける重要な成果であり、地球の生態系を守り、持続可能な社会の実現に向けた大きな前進だった。

また、国連生物多様性の10年が国連総会（決議65/161）において宣言され、生物多様性の主流化は、国連において生物多様性条約の枠組みを超えた再重要な課題とされるに至った意義は大きい。

しかし、気候変動枠組み条約の第十七回締約国会議（COP17）にて採択されたダーバンプラットフォームならびに京都議定書の暫定延長という結論は、残念ながら生物多様性の損失を食い止めるための歩みを後退させてしまった。

そこで現在の生物多様性の危機的状況をのりこえるために、地球上のすべての生き物たちとわたしたち人類が、運命共同体であることを強く認識し、

リオ+20の場において生物多様性が重視され、愛知ターゲットを世界が共有することを求めて、

以下について宣言する。

- ◆国際社会は、リオ+20において、生物多様性の価値と重要性を改めて強調すべきであること
- ◆日本はCBD-COP10の議長国として、CBD締約国のみにとどまらず広く国際社会に対して、生物多様性の主流化ならびに愛知ターゲットの達成のためにリーダー的な役割を果たすべきであること
- ◆東日本大震災ならびに福島第一原発事故という未曾有の災害を経験した日本として、人と自然、生命のつながりを重視し、生物多様性を基盤に置いたグリーンエコノミーによって、自然再生と人々の暮らしの復興を目指す決意を世界に発信していくこと
- ◆生物多様性と気候変動には重大なつながりがあり、リオ+20においては、この双方の課題を切り離すことなく、政治的コミットメントを取り付ける場として機能させるべきであること

地球生態系のティッピングポイントを前にして、人類は幸せや豊かさの概念を深く見つめ直すことが必要な状況に対峙している。私たちは今まさに、求められる発展・開発の在り方を問わねばならない。

私たちは自然との共生の中に、すなわち生物多様性を基盤とした社会を再構築し、次世代に手渡すことにその答えがあると信じている。

自然との共生という精神性を歴史と文化の中で培ってきたわたしたち日本人は、生物多様性の価値を真に理解し尊重することによって環境と開発の両立する持続可能な社会の実現が可能であることを世界に示す責任がある。世界には新たなビジョンが求められている。そして国連生物多様性の10年によるイニシアティブは、そこに素晴らしい影響をもたらさうだろう。生物多様性の重要性を再確認するこの石川での生物多様性に関する記念式典が、その決意を確認し、リオ+20の成功に向けて前進する重要な機会となることを願い、ここに私たちの意志と精神を宣言する。